

特殊なニーズのある子ども（人）のきょうだいに対する支援システムの構築

障害児（者）や慢性疾患患児（者）のきょうだいには、親の関心を引きにくいこと、学校や地域での偏見、日常的な介助、親亡き後の後見など、親とも共有しにくい課題があることが知られています。

きょうだいの課題を調査し、アメリカで開発された Sibshop をモデルに、支援グループワークを開発してきました。支援グループワークは障害種別に関わらず、対象者の年齢別に開発し、未就学児と親、学童期、中学・高校生期のモデルを作成し、効果を検証しました。グループワークの内容は、レクリエーションと討論です。

平成 22 年度には、遺伝性疾患の場合の留意点と情報提供のあり方を明らかにしました。

平成 23 年度には、重度知的障害者施設入所者の保護者ときょうだいを対象に調査を行い、未成年のきょうだいも後見について考えているが情報が不足していること、高齢の母親も心理的得点が有意に低いことを示しました。

平成 24 年度には、韓国で支援グループワークを実施し、日本版グループワークが、そのまま有効であることを実証しました。

研究代表者：障害福祉研究部 北村弥生
kitamura-yayoi@rehab.go.jp